

今月の 我がマチの 一番星☆



一字一句確認しながら点訳作業に取り組む皆さん(早来研修センター)



飛田文也さん

ミスをしなないように 細心の注意を払って

「全道に14組織があります
が、私たちが最後に登録され
た小さな町の小さな奉仕団な
んですよ」と話す安平町点訳
赤十字奉仕団代表の飛田文也
さん。昭和55年に日本赤十字
千歳奉仕団の分団として結成
し昭和61年に独立後、今日ま
で活動を続けてきたといいます。
7名の会員が定期的に集ま
り蔵書の校正を行い、完成し
た作品を図書センターに納め
てきました。

点字版では、両面で1時間
30分かかっていたのが、タイ
プライターでは約30分。さら
にパソコンでは作成時間が一
層短縮され完成本が増えたと
皆さん喜んでいきます。

「点字版には消しゴムはな
いので、間違いは禁物です。
一字のミスですべての努力が
水の泡に消えることもしばし

ばでした」と苦労談を語って
くれました。パソコンの導入
で修正が楽になりましたが、
点訳に取り組む姿勢は変わっ
ていないそうです。
下調べに十分な時間を費や
し、納得がいかなければ徹底
的に調査。「地名や人名など
誤りがないか、出版社に確認

したこともありま。点字で
しか情報を入手できない方の
気持ちを考えると妥協はでき
ません」と作業中の皆さんは真
剣なまなざしでした。
広報あびらの記事は話題性
の高い分野をピックアップ。
一回に24〜25ページになると
いいです。

点字を始めて富門華寮の皆
さんとの交流が深まり、暑中
見舞いの交換やイベントなど
を毎年行っています。
視力を失った方の目となっ
て今後も多く情報を提供し
ていきたいと会員の方々は精
力的に活動していました。

できることから始めるボランティア活動

「年末の大掃除の時などに使ってください」と手縫
いの雑巾を小中学校に寄付したのが7年ほど前。
現在では毎年教育委員会を通して各学校に配ら
れています。「賛同してくれる人は約30人で70
代の方も多く、自分の好きな時間に家で作ってくれ
ます。私は皆さんの善意の品を集めて町に渡すだけ
で主役は協力してくれる皆さんですよ」と控えめに
話す白ゆりの会代表の工藤康子さん。読み聞かせ会の会員や民生児童
委員でもあり福祉に理解が深く、自分たちができることから始めるこ
とを日ごろから心がけていると強調していました。

また、「使用済みのタオルや家庭で眠っている贈答品のタオルなど
を快く提供していただいて」と感謝も忘れません。「出来栄は素晴
らしいですよ。もったいないという意識が浸透していることと、人様
に差し上げるのだから受け取った人に喜ばれるようにしたいという
願いが働き、雑巾にするには惜しい物もあります」と1枚1枚の仕上
がり状態を見ながら「80歳代の方の中には、一針一針手縫いのものや
ミシンで大量に縫った雑巾を提供してくれる方もいて、心温まるもの
を実感している」と言います。

「善意の気持ちを相手が素直に理
解してくれることはうれしいもの
ですよ。自分たちが受けた感激を今
度は別の形で返すような社会にな
ることを望んでいます」と福祉の心
が次代に引き継がれることを願っ
ていると想いを語ってくれました。



工藤康子さん



寄贈された雑巾で学校をきれいに